

AIDS UPDATE

No.20 2001.1.29

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線2941 (輸血部副部長室)

Internet:www.aids-chushi.or.jp

「エイズを抱きしめて」上映と講演

主にブラジル貧困地域を支援する民間ボランティア団体、CRIでは、ブラジルからHIV感染者を招いて講演会を開催します。男性の感染者アラウージョさんは、日本人の友達も沢山います。女性の感染者テレジーニャさんは初来日。通訳もつきます。

広大病院のHIV感染者・エイズ患者は累計68人

広大病院では、12月20日現在、HIV抗体検査陽性が確認された患者数は68人になりました。2000年度の新患の方は6人でした。院内で主治医が患者さんに「エイズの検査を受けてみませんか」と勧めて下さってわかった患者さんもいます。東京では毎週1、2名の新患がある病院が数箇所ありこれに比べると私たちの病院はまだゆっくりです。

Confronting HIV 2000 No.15

昨年末に発行されたブックレットです。内容では、エイズワクチンの解説があります。また免疫再構築症候群の説明があります。これは抗HIV療法が奏功して免疫能が回復すると、結核や非定型抗酸菌症など日和見感染症に対してサイトカインによる攻撃が高まり、炎症症状が強くなる状態です。このような状態があることを臨床医は知っておかなければ、治療の選択を間違えることがあるので、注意が必要です。

地域元原告・ブロック拠点病院・厚生労働省三者協議

2001年1月24日、KKR広島で開催された会議の様子は、一部NHKテレビでも放映されたようです。本院は厚生労働省が指定した、エイズ治療のための中国四国地方ブロック拠点病院です。同じ立場に社会保険広島市民病院、県立広島病院があります。三者協議は薬害HIV訴訟和解事項にもとづいて、厚生労働省と、地域原告と、ブロック拠点病院が協議を行う機関で、毎年1回開催されています。本院の役割についてはHPをご覧ください。

[<http://www.aids-chushi.or.jp/c1/menu.htm>]

厚生省エイズ治療薬研究班

会議の中で本院には、引き続き全科的な対応、高度な医療対応、心理的なケアや社会福祉的なサポート活動の役割、ブロック内の拠点病院に対する支援・教育活動などが求められました。院長先生からはエイズ医療対策室をハード面でもソフト面でも充実してゆく考えを表明されました。

エイズの治療薬の中にはアメリカで新規に認められても、日本では症例数が少ないため開発治験が行われない薬が沢山あります。この研究班は東京医大臨床病理学教室に事務局があり、研究班が治療薬を個人輸入して国内に無料で配布するというもので、熱帯病治療薬の研究班をモデルにしています。広大の患者さんにも複数の医薬品が提供されました。

<ご意見募集>

- ◆ 「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。コピーは自由にして頂いて構いません。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。[TAKATA, OE] e-mail:takata@aids-chushi.or.jp